

科 目 名	医療機能薬学特論Ⅲ				
担 当 教 員 名	教 授 鍋倉 智裕 教 授 松浦 克彦 准教授 上井 優一 講 師 浦野 公彦	単位数	2 (90分授業15回)	配当学期	秋学期
概 要	<p>生体内に投与された薬物は、投与部位から循環血液中へ移行し全身を巡り標的組織へ運ばれ、薬効を発揮する。薬効を最大限に発揮し、副作用を最小に止めるためには、薬物の体内動態を適切に予測する必要がある。薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する知識と技能を習得する。</p> <p>臨床論文を正しく理解し活用することは、薬物治療の適切化や臨床研究の実施において必須の知識およびスキルである。本講義では、代表的な研究デザインを題材とし、知識およびスキルを習得する。また、プロトコールに基づく薬物治療管理について、その方法と実践について理解する。</p>				
内 容 ・ スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物動態学序説、薬物の吸収・分布 2. 薬物の代謝・排泄 3. 薬物速度論（1） コンパートメントモデルとノンコンパートメントモデル 4. 薬物速度論（2） 生理学的薬物速度論(PBPK)と PK/PD 解析 5. 薬物排泄の分子機構（1） 6. 薬物排泄の分子機構（2） 7. トランスポーターと薬物動態（1） ABC トランスポーターと SLC トランスポーター 8. トランスポーターと薬物動態（2） トランスポーター機能阻害・発現誘導による薬物相互作用 9. 臨床論文の理解と活用—ランダム化比較試験— 10. 臨床論文の理解と活用—システマティックレビュー— 11. 臨床論文の理解と活用—コホート研究— 12. 臨床論文の理解と活用—症例対照試験— 13. 臨床論文の理解と活用—患者への適応を考える— 14. プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）（1） 15. プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）（2） 				
評 価 方 法 (基 準 等)	レポート(50%)、口頭による質疑応答(50%)				